

2018年度

さかい福祉と介護の 実践発表会

未来を
代表ある仕事
知っていますか？

平成30年7月1日(日)

堺市総合福祉会館

主 催

堺市・関西大学・堺市老人福祉施設部会

後 援

大阪府社会福祉協議会・堺市社会福祉協議会

プログラム

テーマ「さかいの街で高齢者の『やりたい』を応援する」

第1部：実践発表会

堺市健康福祉局長 挨拶

堺市老人福祉施設部会会長 挨拶

■口述発表（発表順）

社会福祉法人 福生会

特別養護老人ホーム つるぎ荘

高齢者総合福祉施設 ゆーとりあ

特別養護老人ホーム ハートピア堺

特別養護老人ホーム やすらぎの園

特別養護老人ホーム 美樹の園

特別養護老人ホーム グレース堺

高齢者ケアセンター 大仙もずの音

特別養護老人ホーム ふれ愛の家

特別養護老人ホーム 朗友館

特別養護老人ホーム 平尾荘

特別養護老人ホーム ベルライブ

■関西大学 人間健康学部 黒田研二 教授による講評

第2部：ポスター掲示及び就職相談会

目次

《口述発表》 ※口述演題についてもポスター掲示があります。

テーマ：社会（地域）貢献

地域とのつながり みんなの食堂

1

社会福祉法人 福生会

テーマ：地域との連携／社会（地域）貢献

つるぎ荘フェスタを通じた地域貢献について

5

社会福祉法人 そうび会 特別養護老人ホーム つるぎ荘

テーマ：社会（地域）貢献

次世代ニーズに応えるコミュニティプロジェクト

10

社会福祉法人 五常会 高齢者総合福祉施設 ゆーとりあ

テーマ：社会（地域）貢献

子ども食堂始めました ～介護スタッフの挑戦～

14

社会福祉法人 堺福祉会 特別養護老人 ホームハートピア堺

テーマ：人材育成・OJT

人材育成・環境改善の取り組み

16

社会福祉法人 稲穂会 特別養護老人ホーム やすらぎの園

テーマ：人材育成・OJT／施設広報

楽しく施設アピール（広報誌を作ろう！）

18

社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園

テーマ：認知症ケア／自立支援

個別支援の輪を広げる ～やりたいことができる施設をめざして～

21

社会福祉法人 宏和会 特別養護老人ホーム グレース堺

テーマ：認知症ケア

ユマニチュード技法を活かした寄り添いケアの実践

24

社会福祉法人 みささぎ会 高齢者ケアセンター 大仙もずの音

テーマ：排泄・入浴ケア

トイレ（排泄場所）の認識できない方への支援

28

社会福祉法人 東光学園 特別養護老人ホーム ふれ愛の家

テーマ：生活の質の向上と職員の負担軽減

その人らしい生活の実現に向けて ～眠りスキンの導入～

31

社会福祉法人 おおとり福祉会 特別養護老人ホーム 朗友館

テーマ：認知症ケア

利用者様が不安なく生活できるようにするには

34

社会福祉法人 天寿会 特別養護老人ホーム 平尾荘

テーマ：認知症ケア

ケアマッピング（DCM法）導入に向けての実践報告

37

社会福祉法人 悠人会 特別養護老人ホーム ベルライブ

《ポスター掲示》

テーマ：認知症ケア

軽費老人ホームとして社会貢献への取り組み 41

社会福祉法人 さつき会 軽費老人ホーム 延命荘

テーマ：在宅生活の充実

いつまでも在宅生活が続けられるように 42

社会福祉法人 和風会 小規模多機能ハウス アスター

テーマ：余暇活動

あけぼの苑でのクラブ活動とお誕生日のお祝い 43

社会福祉法人 堺暁福祉会 特別養護老人ホーム あけぼの苑

テーマ：人材育成・OJT

経験が無くても大丈夫！ ～介護職員のキャリアアップの支援～ 44

社会福祉法人 風の馬 特別養護老人ホーム アリオン

テーマ：認知症ケア

ひとり一人に合った生活環境を整える事が、我々の仕事です！ 45

社会福祉法人 あすなろ会 地域密着型 特別養護老人ホーム ウェルフォンテ ひのき

テーマ：特別養護老人ホームにおける個別ケア

ユニットケア ～ひとつひとつの思いに寄り添う暮らしの継続～ 46

社会福祉法人 桜会 特別養護老人ホーム グリーンハウス

テーマ：行事・レクリエーション

笑顔あふれる施設をめざして 47

社会福祉法人 大阪福祉会 特別養護老人ホーム ハピネス金岡

テーマ：認知症ケア／在宅生活の充実／地域との連携

ベルファミリアにおける認知症家族支援《あっとほーむ》開催までの経緯 48

社会福祉法人 悠人会 特別養護老人ホーム ベルファミリア

テーマ：自立支援

機能訓練でのADL向上による自宅復帰に向けた自立支援（施設入居者が望む生活の実現） 49

社会福祉法人 上神谷福祉会 特別養護老人ホーム 槇塚荘

テーマ：認知症ケア／地域との連携／社会（地域）貢献

認知症カフェと互助精神の醸成事業 50

社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団 特別養護老人ホーム 美原荘

テーマ：食事・栄養・口腔ケア

口腔ケア：介護職員が誤嚥性肺炎を防ぐ口の体操の取り組みについて 51

社会福祉法人 関西福祉会 特別養護老人ホーム 陵東館

テーマ：認知症ケア

Aさんの事例から考える「その人らしい暮らし」とは？ 52

社会福祉法人 コスモス 老人デイサービスセンター 結いの里

《口述発表》

※口述演題についてもポスター掲示があります。

テーマ：社会（地域）貢献

地域とのつながり みんなの食堂

社会福祉法人 福生会

主任：山田展裕／CM：長岡武彦／事務：大西美和

●事業所紹介

社会福祉法人全国第1号認可
養護老人ホーム福生園 特別養護老人ホーム嘉齢荘 嘉齢荘診療所
有料老人ホームフロイデンハイム 福生会デイサービスセンター
居宅介護支援事業所、訪問介護の高齢者介護・福祉事業を行っています

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

社会福祉充実計画として地域における公益的な取り組み
福生会創立の主旨に立ち返り、手作りの食事を提供したい
地域住民（子どもからお年寄りまで）の孤食等を支援する

【具体的な取り組み】

みんなの食堂（2か月に1回）、毎日型（昼食5食、夕食5食）の開催
実現に向けての協力要請（中区ラウンドカフェ、つむぎの会、自治会、子ども会連合会、地元
民生委員、小学校など）
食の提供だけでなく、居場所を提供する（ボランティア、スクールカウンセラー、宿題、〇〇
体験、映画など）
子ども食堂をベースとしてどの世代の人も参加できる場所

【活動の成果と評価】

何度か参加している子どもたちの居場所となってきた
協力機関との連携（大学生、子育て支援アドバイザーや障害者事業をされている方など）
問題を抱えた児童への対応（スクールソーシャルワーカーや小学校長への報告など）
地域公益事業への登録

【今後の課題】

孤食者や本当に必要とする人をどう見つけ、つながりを持つことができるのか？
みんなの食堂の募集方法は現在の募集方法で良いのか？
子どもだけでなく成人、高齢者の参加者が増え交流の場にしたい
毎日型について広めたいが、一度にたくさんの方の利用は難しい

みんなの食堂in福生会

孤食とどう向き合うのか

法人紹介

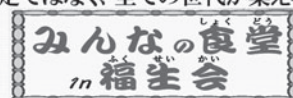
- 法人名 社会福祉法人 福生会
- 法人設立 昭和 27年 1月 10日
- 創立の由来 創立者は終戦後、自宅を法人に寄付し身寄りのない戦災孤老へ食事提供し、同居し始めたのが創まりである。

事業所紹介

- 養護老人ホーム 福生園(始まりの事業所)
- 特別養護老人ホーム 嘉齢荘
- 福生会デイサービスセンター(みんなの食堂開催場所)
- 福生会ヘルパーステーション
- 福生会居宅介護支援事業所
- 嘉齢荘診療所
- 有料老人ホーム フロイデンハイム
- 介護型有料老人ホーム ロイヤルケアフロイデン

子ども食堂開催へ向けての動き

- ①法人理事長としても、何か社会貢献できないか考えていた
- ②社会福祉法の改正があり、社福法人は
「地域における公益的な取り組み」
するようにと通達があった。
- ③子どもに限定ではなく、全ての世代が集える居場所



を発案し、プロジェクト開始となる。

協力者への呼びかけ



中区
ラウンドカフェ



中区
つむぎの会

中区つむぎの会活動風景



協力者の方々

中区つむぎの会

- 社会福祉協議会 中区事務所
- スクールソーシャルワーカー
- 社会福祉法人東光学園
- 株式会社PEACE
- 老人保健施設だいせん
職員と高齢者(社会参加)
- 紀州テック

中区ラウンドカフェ

- 堺市中区役所
(ふーどばんくOSAKA紹介)
- 堺市子育て支援アドバイザー
- マリーさんの野菜畑
- 大阪府立大学V-station
- ハビネスチャリティー

課題

- ①地域とのつながりが無い
- ②子ども達への周知(広告配布)

問題解決①

地元民生委員の方との直接的なパイプが無かった。

そこで

堺市社会福祉協議会 中区事務所

民生委員会
出席決定

問題解決② 広告配布 小学校での広告配布

そこで

堺市中区役所 企画総務課
校区連合会 会長

結果

問題解決②

小学校での
広告配布決定！

学校の思い

“校区連合会”

“堺市中区役所”

“社会福祉協議会”

“校区民生委員会”

“スクールソーシャルワーカー”等

小学校に関わる機関を通じた企画で、賛同を得ている
ことを確認できたので、協力することとなった。

みんなの食堂開催 ～夕食型～



みんなの食堂開催 ～昼食型～

映画上映



「地域における公益的な取り組み」

2ヶ月に一回の開催では何も孤食の解決にならない。

そこで

毎日型 みんなの食堂in福生会
開始

昼食 夕食 一日各5食程度

そして

「地域における公益的な取り組み」



福生会の社会福祉法人としての

「地域公益事業」

現在の取り組み状況

- 2か月に1回のイベント型
 - 毎回の参加者は30名程度
 - 協力者の方の増加
(フロンティア 三国ヶ丘マッサージ きいちご畑
クレストケア等)
 - 子どもの居場所づくりへの取り組み
-
- 毎日型
 - 毎日型の事業を知っている方からの声掛け
 - 毎日型の活用



最後に

共生・協働

ご清聴ありがとうございました



テーマ：地域との連携／社会（地域）貢献

つるぎ荘フェスタを通じた地域貢献について

社会福祉法人 そうび会 特別養護老人ホーム つるぎ荘

介護支援専門員：吉澤直樹

●事業所紹介

つるぎ荘は、平成6年に開設した100床の特別養護老人ホームです。社会福祉法人そうび会は、社会福祉の根本である「人間尊重」の理念に基づき、活動しています。高齢者福祉のみならず、すべての人々の幸せを願いつつ医療・保健・教育分野でも、地域での生活を支える体制づくりに取り組んでいます。その一環として保育事業も展開、児童の愛護にも力を注いでいます。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

当法人は、設立以来地域に根ざした活動を続けていますが、地域貢献という観点から新しい取り組みを行いました。従来の入所者中心の文化祭を発展させ、地域の方に施設を開放し、地域と共に歩む社会福祉法人として 利用者の皆様は勿論、地域の子どもたち、高齢者、障がいのある方ない方全ての人々に 喜び・笑顔・幸せを提供したい。そんな思いから、このつるぎ荘フェスタを開催しました。

【具体的な取り組み】

つるぎ荘フェスタは、平成28年10月と平成30年4月に開催しました（平成29年10月は台風のため中止）。地域の小学生や高校生、大学生による吹奏楽やダンスなどのステージがあったり、キッチンカーによる屋台があったり、様々な手作りのお店によるひだまりマーケットがあったり、小学生を対象にしたうどん作り体験などの体験イベントがあったりと様々な年齢の方楽しんでいただけたイベントができました。また準備の日からたくさんの学生ボランティアや当日には小学生によるフェスタサポーターが花を添えてくれました。

【活動の成果と評価】

第1回目は600名、第2回目は1000名を超える方に来場いただきました。地域の小学校や高校、団体など、普段関わることのない人々とつながることができました。来場された方から「楽しかったよ。来年もやってね」とたくさん言われたこと、学生ボランティアからは「福祉に興味がなかったけど、職員さんや施設の取り組み方を見て福祉の仕事もいいなと思いました」と言われ、今回の取り組みをしてよかったと感じています。

【今後の課題】

つるぎ荘フェスタだけでは年1回の開催であるので、継続的に地域との接点を持つ取り組みを実施すること。また、つるぎ荘フェスタでつながった縁を活かしてつながりを広げ、継続して地域貢献を続けることが課題であると考えています。

つるぎ荘フェスタを 通しての地域貢献について



社会福祉法人 そうび会
特別養護老人ホーム つるぎ荘
吉澤 直樹

そうび会の事業内容①

- ▶ 特別養護老人ホームつるぎ荘 平成6年4月開設
住所：堺市東区日置荘田中町143-1
(南海高野線 萩原天神駅より徒歩10分)
- ▶ 特別養護老人ホームつるぎ荘（定員：84名）
- ▶ ショートステイ事業（定員：16名）

併設事業

- ▶ つるぎ荘デイサービスセンター
- ▶ つるぎ荘ヘルパーステーション
- ▶ つるぎ荘ケアプランセンター
- ▶ つるぎ荘診療所



そうび会の事業内容②

- ▶ つるぎ荘やしも・地域サポートセンター 平成17年7月開設
住所：堺市東区石原町3丁150

実施事業

- ▶ つるぎ荘・やしもグループホーム
- ▶ つるぎ荘・やしもデイサービスセンター
- ▶ つるぎ荘・やしもケアプランセンター
(平成30年5月開設)
- ▶ 平成24年4月 東第一地域包括支援センター開設



そうび会の事業内容③

- ▶ 惣社保育園 平成15年4月開設
(0歳児～5歳児/定員130名)
住所：藤井寺市惣社1-3-28



社会福祉法人としてのこれまでの地域貢献活動

- ▶ 法人独自で実施していること
 - 地域サロンでのお手伝い(運動や講話)
 - 地域のお祭りへの出店
 - 保育園での子育て支援(園庭開放)
- ▶ 他機関との連携にて実施していること
 - 堺ぬくもりカフェの開催(平成28年より)
 - こども園との交流
 - 中間的就労(ユニバーサル就労)支援
 - 大阪しあわせネットワークへの参画

取り組んだ課題について①

- ▶ 今まで活動してきたが、もっと地域の人に
そうび会の存在を知ってもらいたい。
- ↓
- ▶ そうび会がもっと地域の方に
身近な存在になる方法を検討した。

取り組んだ課題について②

- ▶ 今までの文化祭は入所者及び入所者家族が中心であった。
- ↓
- 従来の文化祭を発展させ、地域の方に施設を開放
- 地域と共に歩む社会福祉法人として 利用者の皆様は勿論、
地域の子供たち・高齢者・障がいのある方ない方全ての人々に
喜び・笑顔・幸せを提供し、地域との交流を図りたい。
- ↓
- つるぎ荘フェスタ開催

具体的な取り組み①

- ▶ 利用者中心から関わる人々みんなが楽しく
なるイベントにしたい

6つのポイント

周知方法・ 地域の方への 協力依頼	ショッピング エリア	フードエリア
ステージエリア	体験イベント	学生ボランティア・ フェスタサポーター

具体的な取り組み② 周知方法

- ▶ 周知方法
 - 連合自治会に
ポスター掲示・回覧板依頼
 - 周囲の家庭へ
新聞折込チラシを配布
(開催1ヶ月前と2週間前
の2回。1万5千部ずつ)



具体的な取り組み② 地域の方への協力依頼

- ▶ 地域の方への協力依頼
 - 自治会へテントの貸出依頼
 - 臨時駐車場の使用依頼
 - 地域のパン屋さんやケーキ屋さん、障がい者福祉施設に出店依頼
 - 子ども会・小学校にフェスタサポーター募集のポスターを配布
 - 小学校・高校・大学の部活や地域の文化教室に
ステージへの出演依頼

具体的な取り組み③ ショッピングエリア

従来の文化祭
▶ パザールを開催



つるぎ荘フェスタ
▶ マルシェ（手作り市）で活躍中の作家さんに出店を依頼した。
▶ 地域のお店や障がい者作業所に出店を依頼した。
▶ チャリティマーケットを出店し、売り上げを災害義援金とした。

具体的な取り組み③ ショッピングエリアの様子



具体的な取り組み④ フードエリア

従来の文化祭
▶ 職員による模擬店
・おでん
・カレー
・寿司
・たこ焼き
など施設手作りのメニュー

つるぎ荘フェスタ
▶ キッチンカーによる移動販売
・クレープ
・淹れたてコーヒー
・石釜ピザ
・から揚げ
・焼きそば
・点心
・ステーキ丼（つるぎ荘）など

具体的な取り組み④ フードエリアの様子



具体的な取り組み⑤ 屋外ステージ

従来の文化祭
▶ 職員による劇
▶ ボランティアによる演奏など

つるぎ荘フェスタ
▶ トラックステージ
①登美丘高校 フォークソング部 ライブステージ
②登美丘高校 吹奏楽部 吹奏楽コンサート
③地域のダンス教室 ダンスステージ
④大阪府立大学 奇術部 ジャグリングステージ

具体的な取り組み⑤ 屋外ステージの様子



具体的な取り組み⑤ 屋内ステージ

従来の文化祭
▶ 職員による劇
▶ ボランティアによる演奏など

つるぎ荘フェスタ
▶ 室内ステージ
①金岡高校 ダンス部 ダンスステージ
②日置荘っ子音楽団 吹奏楽コンサート
③大阪府立大学 奇術部 テーブルマジックステージ
④ヘグム/バラム 韓国楽器 ヘグム演奏

具体的な取り組み⑤ 屋内ステージの様子



具体的な取り組み⑥ 体験イベント

- 小学生向け
 - ・うどん作り体験（丸亀製麺）
 - ・科学教室 空気砲作り（学研）
 - ・シュークリーム、クッキー作り（つるぎ荘）
- 一般向け
 - ・みそ作り（雨風醤油）

具体的な取り組み⑥ 体験イベントの様子



うどん作り

みそ作り

具体的な取り組み⑥ お茶会・健康コーナー

○お茶会

- ・美原高校 茶道部に依頼

○健康コーナー

- ・骨密度、血管年齢測定
(タイコー堂薬局協力)
- ・健康相談 (ネスレ日本協力)



具体的な取り組み⑥ 冒険広場・スタンプラリー

○冒険広場

- ・子ども向けに
アトラクションを用意

○スタンプラリー

○大抽選会



具体的な取り組み⑦ 学生ボランティア

- ▶ フェスタの運営やお手伝いを通し、福祉に興味を持ってもらえないだろうか？若い力を借りることでフェスタにパワーをもらえないだろうか？

↓
大学生・専門学生に向けて
ボランティア募集を行う。

参加大学 (第2回)
・大阪物産大学
・大成学園大学
・羽衣国際大学
・桃山学院大学

参加専門学校 (第2回)
・大阪医療技術専門学校
・関西社会福祉専門学校
・日本メディカル福祉専門学校
・NHK学園

具体的な取り組み⑦ フェスタサポーター

- ▶ 小学生を対象にお仕事体験を通しフェスタを楽しみ、福祉の仕事に興味を持ってもらえないか？

- ▶ 小学生を対象にフェスタサポーターを募集
⇒8名が参加

参加小中学校 (第2回)
・日蓮荘西小学校
・初芝富田林中学校

具体的な取り組み⑦ フェスタサポーター活動風景



活動の成果①



活動の成果②

○参加ショップ数

第1回	第2回
24店 (うちフード6店)	27店 (うちフード7店)

○チャリティマーケット売上

売り上げ(第2回)	寄付先
6万9千円	熊本地震災害義援金

活動の成果③

○学生ボランティア参加者(第2回)

	前日準備	当日参加
大学生	8名	11名
専門学生	7名	7名
合計	15名	18名

○フェスタサポーター参加者(第2回)

小学生	中学生
7名	1名

活動の評価①

▶ 来場者の声

『楽しかった。来年もやってほしい。』
『ステージのパフォーマンスが素晴らしかった。
距離感も近くてよかった。』
『うどんを自分で打って食べるなんて、なかなか出来ないのが
楽しかった。』

活動の評価②

▶ 学生ボランティアの声

『来てくれた人々から「楽しかったよ」「ありがとう」
といっぱい言ってもらえて手伝ってよかったと思う。』
『福祉には興味がなかったけど、職員さんや施設の
取り組みを見て福祉の仕事もいいなと思いました。』

活動の評価③

▶ フェスタサポーター（小学生）の声

『職員の方が優しく接してくれたので、楽しくお手伝いできた。』

『お手伝いに来ているという自覚が必要だと思った。』

活動の評価④

▶ 自己評価

○今まで足を運んで頂くことのなかった地域の方々が
沢山つるぎ荘へ来て下さった。

○今までつながりのなかった地域の団体や高校・中学校・
小学校とつながることが出来た。

○学生に今までと違う形で社会福祉法人の魅力をアピール
することが出来た。

今後の課題①

▶ 今後の開催について

○1000人を超える来場者があり、会場がかなり混雑して
いたため規模を現在より拡大する事は難しい。

今後の課題②

▶ フェスタで出来たつながりを活かす努力

○ボランティアや地域の団体に年間行事への
協力依頼を通じてつながりを維持していく。

○施設開放イベントを実施して地域の方に
そうび会の施設に来ていただき、身近に感じて頂く
努力を続ける。

今後の課題③

- ▶ 福祉の魅力発信をどのようにしていくか？4Kのイメージを
どのように払拭していくか？



フェスタだけでなく、広報やブログ・SNS、
就職説明会などで社会福祉法人の魅力を積極的に
PRしていく。

ご清聴ありがとうございました。



第3回つるぎ荘フェスタは2019年6月2日開催です。

テーマ：社会（地域）貢献

次世代ニーズに応えるコミュニティプロジェクト

社会福祉法人 五常会 高齢者総合福祉施設 ゆーとりあ

相談員：原規高／機能訓練指導員：臼井経留

●事業所紹介

地域での暮らしの継続を第一に考え、様々な高齢者を幅広く支える高齢者総合福祉施設として、「あたりまえの暮らし」「おもいおみの暮らし」「つながりある暮らし」の実現に向け取り組んでいます。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

当法人では、在宅介護支援センターを中心に地域住民との身近な繋がりを大切にしてきた。近年になり、いきいきサロン等の従来活動では充足できない「パーソナルな介護予防運動へのニーズの高まり」「多世代が集える居場所づくりの必要性」を感じ、今までの関係性を活かしながら、従来にはない新たな取り組みを立ち上げた。

【具体的な取り組み】

《東陶器校区シニア元気プロジェクト》

“身近な場所で気軽に運動できる機会”が地域の強いニーズであると捉え、新たな取り組みを模索していた。自治連合会長からも高齢化率上昇などの地域の実情から介護予防活動創出の協力依頼があった。自治会・堺市社会福祉協議会と協働しながら、地域の身近な場所で、パーソナルな生活課題にも対応する専門職による取り組みをスタートした。

《ふらっと・ぷらっと 三原台》

泉北ニュータウンはまちびらき50周年を迎え、少子高齢化の進展による担い手不足・社会的孤立・引きこもりの増加など、多世代・多様な問題を抱える。一方で様々な知識・技術・経験を持つアクティブシニアが多くおられるという強みと同時にそれらの方が参画する機会がないといった課題を有する。そこで、アクティブシニアから子育て世代、学生や子どもたちが、ふらっと気が向いた時にいつでも交流できる“まちの居場所”をスタートした。

【活動の成果と評価】

スタートから一年が経過。いずれの取り組みにおいても共通して、いきいきサロンや自治会活動等といった従来の活動には参加されなかった住民が参加されている。“できあがった集団には入り難かった”“既存の活動内容は自分に合わなかった”といったニーズに合致したと思われる。また、それらの方々が“新たな取り組み”をきっかけとして、従来の活動にも参加し始めた結果、他の住民と繋がるといったことも見られた。また、取り組みを通して地域住民、自治会との連携も深まっている。

【今後の課題】

従来にはない“新たな取り組み”によって、地域に潜在する“次世代ニーズ”ともいえる一端が伺えた。集団ではなくパーソナル・専門性・こだわり・本物志向等と共に社会との繋がりや活動への参画といったニーズに応え続けるためには、専門職によるエビデンスのある取り組みやパーソナルニーズに応えるセンスやアイデアを兼ね備える必要がある。また、取り組み継続に向けて施設職員のコーディネート機能と運営資金の回収策が今後の課題である。

高齢者総合福祉施設 ゆーとりあ 法人・沿革

所在地	堺市中区見野山164番地
地域特性	堺市南区・大阪狭山市と隣接。旧村地域の端に位置し、幹線道路を挟み開発後50年程度を経過した泉北ニュータウンがある。
事業開始	昭和56年9月1日 軽費老人ホーム陶器荘(50名)
施設サービス	特別養護老人ホーム(ユニット型・定員80名) 軽費老人ホーム(ケアハウス 定員50名)
在宅サービス	居宅介護支援 訪問介護 通所介護(機能訓練型)(定員25名) 短期入所生活介護(定員20名)
地域活動	在宅介護支援センター 認知症Café O!uO!u 介護予防教室 Yo!Bona 東陶器短期集中通所サービス ぽてりあ ふらっと・ぷらっと三原台(多世代交流のまちの居場所) その他



これまでの地域活動

項目	内容
専門性を生かして地域へ出張	認知症介護指導者、理学療法士等による ・介護予防、認知症予防の取り組み ・講座・講演会
施設の活用	・認知症カフェO!uO!u ・介護予防教室Yo!Bona ・かんたんマシン教室 ・健康セミナー ・Café ml:mo ・Bar ml:mo (Gie gie Bar: じーじーバー)
入居者の力	・うたってみへの(カラオケ) ・つくってみへの(手芸クラブ) ・地域ふれあい喫茶
施設の開放	・音楽教室アルマミア ・いきいきサロン ・校区ボランティアビューロー ・ほっこりルーム ・福祉遊園地
多様な相談	社会福祉士による ・独居高齢者の継続的見守り・お元気ですか訪問活動との連携 ・介護保険サービス利用などの個別相談 ・困りごと・心配事などへの緊急対応
住民活動	・こども110番 ・堺市高齢者徘徊SOSネットワーク ・地域生産野菜を食材として購入 ・地域ふれあい祭り・模擬店出店 ・見野山ふれあい喫茶
機関連携	・高齢者関係機関 ・民生、児童委員会 ・自治連合会 ・校区福祉委員会 ・老人介護者家族の会 ・中区あんしんネットワーク 他

新たに取り組んだ地域活動

I. 東陶器短期集中通所サービス 「ぽてりあ」 (まちのリハビリ相談所)

II. ふらっと・ぷらっと 三原台 (まちの居場所)

I. 東陶器短期集中通所サービス ぽてりあ



『ぽてりあ』
…Pottery(陶器)と ゆーとりあ による造語

場所：東陶器校区地域会館

定員：10名

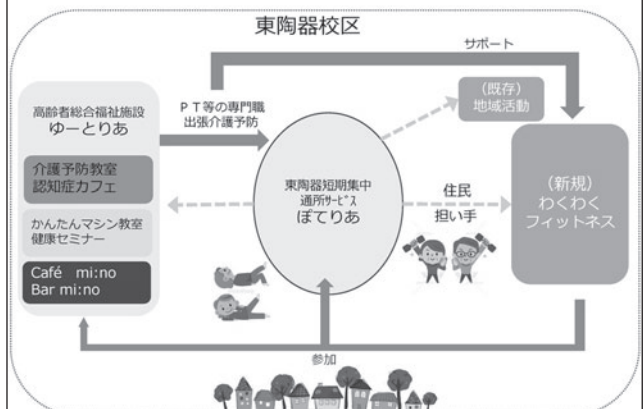
H29年5月事業開始

短期集中通所サービスとは？

堺市介護予防・日常生活支援総合事業の通所型サービス

概要	- 機能訓練指導員などによる、転倒予防や足腰の筋力保持・増進のための短期間の機能訓練。 - 週1～2回、1回あたり2時間程度。 - 原則3か月、12～24回で終了。(必要に応じて3か月延長可能)
対象	- 要介護認定：要支援1・2 - 要介護認定：非該当で、生活機能の低下が見られる場合

地域の中の“ぽてりあ”



東陶器校区の現状・困りごと

高齢化率は堺市平均より低い…一方で元気なシニアが少ない！？

- シニア層(65歳以上)が約3,500人暮らす。
- 高齢化率は25.8%。堺市平均より約1%低い。
- 2年前に比べて+1.5%と急激に増加。
- ひとり暮らしシニアも約800人と増えている。
- 何かしらの支援が必要となる「要介護等認定率」は堺市平均より1%以上も高い。
- そのような問題を危惧した自治連合会長から、運動メインの介護予防活動を創出に力を貸して欲しい、との相談を受けた。
- 自治連合会、堺市社会福祉協議会と共に「東陶器校区シニア元気プロジェクト」として取り組み始めた。

「東陶器校区シニア元気プロジェクト」堺市社会福祉協議会 下田氏資料より

これまでの地域活動から感じていたこと

専門的な運動を、近所で定期的にできる場所が欲しい！

- 近年、特に介護予防運動へのニーズの高まりを感じ、介護予防教室Yo!Bonaを開始。(H28年4月。施設デザインサービスフロア利用)
- 参加者の声などから、「より身近なところで運動できる機会」が住民にとって最も強いニーズと捉えていた。
- 平成29年4月の堺市介護予防・日常生活支援総合事業スタートを機に事業開始を検討していた。
- 「地域を元気にするまちづくり」のために、施設が持つ専門性やノウハウを、に役立てるには？

“ぽてりあ”の特徴

- 従事者をリハビリ専門職である理学療法士等に限定。
- 介護予防の段階からリハビリの本質を理解していただき徹底的な個別運動指導や生活相談等を行う。
- 個々の基礎疾患等を考慮した運動の種類や量を設定。



『事例報告①』

【U氏】

女性 76歳 要支援1 実施期間…3か月

U氏	握力 (kg)	片足立ち (秒)	5m歩行 (秒)	TUG (秒)
開始前	11.5	10.81	3.43	8.00
3か月後	13.4	15.26	3.15	6.28
効果	1.9↑	4.45↑	0.28↑	1.72↑

- ◆主な疾患…右変形性膝関節症、右肩関節Ope
- ◆サービス終了後…わくわくクラブ、Yo!Bona等
- ◆痛みが軽減した。元気になった。

『事例報告②』

【M氏】

女性 76歳 要支援1 実施期間…3か月

M氏	握力 (kg)	片足立ち (秒)	5m歩行 (秒)	TUG (秒)
開始前	21.0	32.68	3.07	5.81
3か月後	19.6	28.04	3.09	5.57
効果	1.4↓	4.64↓	0.02↓	0.24↑

- ◆主な疾患…両変形性膝関節症（人工関節Ope）
- ◆サービス終了後…わくわくクラブ
- ◆身体の状態は良い。病院への通院など忙しく時間がない。

『事例報告③』

【A氏】

女性 93歳 要支援1 実施期間…6か月

A氏	握力 (kg)	片足立ち (秒)	5m歩行 (秒)	TUG (秒)
開始前	19.3	3.67	4.14	8.77
3か月後	21.0	3.3	2.48	8.38
効果	1.7↑	0.37↓	1.66↑	0.39↑

- ◆サービス終了後…わくわくクラブ等
- ◆腰痛、股関節痛が楽になった。動きが楽になった。

参加者の声など

- 自分に合ったプログラムを自分のペースでできる。
- 運動に特化して余計なものが無いのが良い。
- 他の参加者と、適度に交流できるのが良い。
- 独りでは運動を続けられないが、週1回この場に来て他の参加者と話したり笑ったりしながら運動を続けられるのが楽しい。
- 家での運動習慣が身に付く。

取組みから感じたこと

- 参加者個々の様子を開始当初と比較すると、運動機能測定値には反映されない表情の変化、心身の活性化、活動意欲の向上などが顕著にみられる。
- 個別運動プログラムの作成により、自主的・主体的に運動をしたり、その内容を自宅に持ち帰って取り組む等の流れが上手くできあがりつつある。
- 卒業後も、運動習慣の継続に繋がる機会が必要。

Ⅱ. まちの居場所 ふらっと・ぷらっと三原台



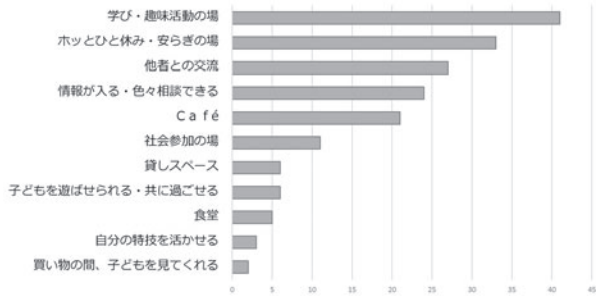
泉北ニュータウン・ 近隣センターの現状

- コミュニティ活動等の担い手が不足。
…まちびらきから50年が経過。人口減少・少子高齢化の進展・高齢化率33%超。
- 社会的孤立、引きこもり、担い手不足等の増加。
…多世代に渡る多様な生活課題が発生。
- 商業機能の低下が近隣センターの利用低下に繋がっている。
…店舗の撤退 空き店舗の増加 医療や福祉施設の集積。
- 日常利便機能+コミュニティ機能＝「地域の賑わい」低下。
…近隣センターがかつて有していた機能の状況が変化。
- 多様な知識・技術・経験をもつアクティブシニアが多数。
…一方で、地域活動に参画する機会や場所が少ない。

「泉北ニュータウン近隣センター再生プラン」堺市平成27年8月より

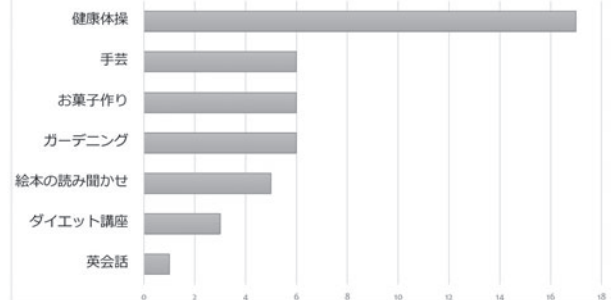
アンケートより ～あったら良いと思う場所～

まちの居場所として、どのようなことがあれば良いですか？ (n=69)

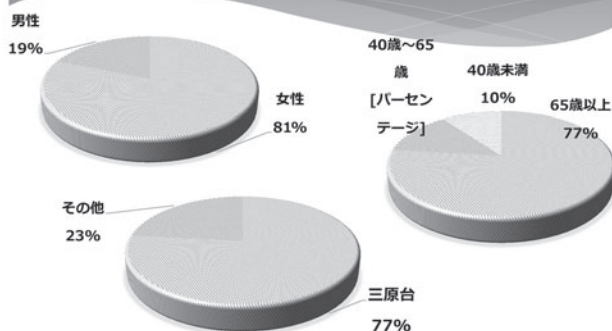


アンケートより ～やりたいこと、活かせること～

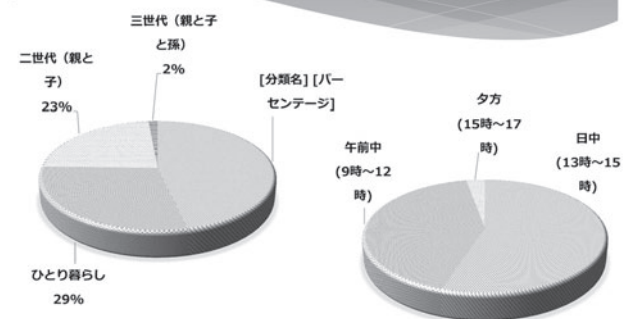
あなたの趣味や特技、やりたいこと、ちからを活かせること (n=69)



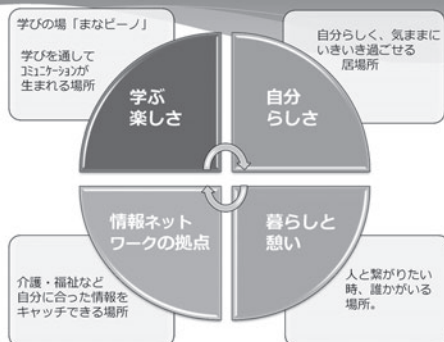
アンケートより ～性別・年齢・お住まい～



アンケートより ～家族構成・利用希望時間～



まちの居場所としての機能



参加者の声から

- 独居で日中、どこにも居場所が無かった。
- 子供が泣いたり、大きな声を出しても気兼ねしないで居心地がよい。
- 気軽に参加できるイベントを通して友達ができた。
- 赤ちゃんの世話など、自分が役立てるボランティアがあって嬉しい。
- 日常の暮らしの中で気軽に介護の事などが聞ける場ができた。

参加者の声から

- 「既存の活動内容は、自分には合わない」「できあがった集団には入りにくい」「専門的なことを教わりたい」等といったニーズが多くある。
- “新たな活動”への参加をきっかけとして、既存の自治会活動や友達づくりに繋がることが数多くある。
- 地域の自治会・民生委員・ボランティアから、改善点や運営に関する意見もよくいただくなど、良好な関係性が築けている。「自分たちも参画して一緒に創っている」との声があった。

おわりに

- **地域によってニーズは違う。**
それを肌身で感じる。地域に教わる。
- 「地域のために！」ではなく
あくまで、「いち地域住民として！」
- “新たな取組み”は
人と人が繋がる為のひとつのツール！

テーマ：社会（地域）貢献

子ども食堂始めました ～介護スタッフの挑戦～

社会福祉法人 堺福祉会 特別養護老人ホーム ハートピア堺

特別養護老人ホーム 介護スタッフ：畠中真世

●事業所紹介

特別養護老人ホームの他、デイサービスセンター、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターを併設している。

また、地域内に懐かしミュージアム「ふらっと三宝」を作り、地域の事業所と協働して、地域住民が集える場としている。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

社会福祉法人として、地域のニーズへの取り組み
地域住民との協働

【具体的な取り組み】

地域住民より、ひとりで留守番をするような子どもたちの居場所づくりとして「こども食堂」をやってみたいとの要望があった。高齢者施設ではあるが、社会福祉法人として地域ニーズへの取り組みとして、平成29年3月より年4回みんな食堂「ハート食堂」として実施する。子ども・おとなとも食費100円で食事作り・提供の他、学生ボランティアによる学習支援、施設スタッフによるクラフト実施などをした。実施にあたり、ボランティアの募集、地域住民への説明、周知にも取り組んだ。

【活動の成果と評価】

学校のない土曜日の午前中に開催し、子どもがひとりでも来られる居場所づくりができた。地域役員と相談し、地域ニーズを相談することで、校区の掲示板に「ハート食堂」のお知らせを掲示してもらった。地域が関わっていることで、子どもたちやおとなに安心して参加してもらえるようにした。

地域と社会福祉法人とのつながりの他、ボランティアとの関わり、近隣大学と地域の関わりができた。

参加した子どもたちに、特別養護老人ホームを知ってもらうことができた。

【今後の課題】

- ・実施校区のこどもの参加が少ないため、子どもやおとなへの周知の方法やよりニーズに沿った実施方法の検討
- ・介護の仕事に興味を持ってもらえるような取り組み。

みんな食堂「ハート食堂」

社会福祉法人としての地域貢献
こども食堂始めました～介護職の挑戦～

社会福祉法人増福社会
ハートピア増 地域活動委員会
こども食堂担当 畠中 真世

社会福祉法人増福社会
ハートピア増

平成8年4月開所

特養84床
短期入所16床
通所介護65名
(1単位目40名、
2単位目25名)
訪問介護ステーション
居宅介護支援事業所

地域包括支援センター
在宅介護支援センター

・懐かしミュージアム
・ふらっと三宅
・認知症カフェ「ハートカフェ」
・ブーカースカフェ
・おとひめカフェ
・みんな食堂「ハート食堂」



みんな食堂 「ハート食堂」

こども食堂とは

貧困問題における問題

- ・給食費、修学旅行費が支払えない。
- ・医療費の自己負担が払えず受診できない。
- ・インスタント麺を週1回以上食べている。
- ・炭水化物が増えて肥満気味である。
- ・親が不在な為、こども一人で食べる孤食になる。

ハート食堂の目的



こども達の居場所作り

- ★誰かと一緒に食事をする事は
「美味しい」「嬉しい」「楽しい」
- ★自宅で勉強をする場所がないこども達への
学習場所を提供
- ★居場所があることでの安心感



平成29年度ハートピア増 ハート食堂の活動

★開催日時

3月、7月、12月、3月 第1土曜日
9時30分～12時30分

★参加者：幼児～中学生

★参加費：100円

★ボランティア：三宅校区の方、関西大学学生

★内容：

3月 ちらし寿司、宿題
7月 素麺だし作り、七夕飾り、宿題
12月 音楽会、クリスマスカード作り、宿題、
千金ライス、チョコレートタワー
3月 絵手紙、音楽隊、デコレーションちらし寿司



勉強会



音楽会

素麺
だし作り



我が事・丸ごと 地域包括ケアシステム

- ・高齢者だけでなく世帯支援の考え方
- ・社会福祉法人としての地域貢献
- ・地域との協働
(福祉職として専門性の発揮)

今年度の課題と活動

★課題

こども達・みんなの居場所として定着すること

★平成30年度の活動

・月2回の開催

第1土曜日 みんな食堂「ハート食堂」

第2水曜日 英語教室

ご清聴ありがとうございました。

テーマ：人材育成・OJT

人材育成・環境改善の取り組み

社会福祉法人 稲穂会 特別養護老人ホーム やすらぎの園

岡本真基子／南野裕樹

●事業所紹介

特別養護老人ホーム（入居80床、ショートスティ20床）

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

介護業界において、どの職場でも同様の課題と思われますが当施設でも時間に追われる場面が多く、役職職員による新人職員のメンタルケアが不十分という課題がありました。役職職員と新人職員間での明らかなコミュニケーション不足、話しやすい環境や雰囲気を作れていないこと、実際に思いを聞いても気持ちを汲んだ対応・行動ができていないことが明らかになりました。

【具体的な取り組み】

まず、アンケートを役職職員と新人職員に対して「仕事の効力感・充実感」、「人間関係」、「上司／部下のマネジメント」の3項目を中心に行い、それぞれの立場での意見集約をしました。次に実際に面談を行い、普段とは異なる時間に余裕のある中で仕事、職場に対する思いをより詳細に聞き取ることができました。その思いを活かし、勤務体制の改善や日々のコミュニケーションの取り方で時間を作る、面談をするタイミングや話しやすい場所の確保などに取り組むことになりました。

【活動の成果と評価】

新人職員の方々は不安に思っている、口に出せないことが多く、精神的に追い込まれている方がいることがアンケートと面談で明らかになりました。「気にかけて嬉しかった」、「ゆっくり話ができて良かった」との意見がありました。また役職職員は部下の精神面のフォローの必要性を再認識したとの意見が多く聞かれました。

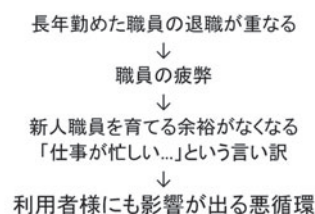
【今後の課題】

職員全員がコミュニケーションをしっかりとれることがベストですが、シフト勤務や所属フロアが違ったりで日々こまめな面談の継続は困難な場合があります。役職職員で介護の中で得意な分野毎に担当を決め、担当として指導と捉えるのではなくアドバイザーとして部下に話かけ、一緒に考える時間を作り、楽しみながらより良い職場環境をめざしていきます。

社会福祉法人 特別養護老人ホーム やすらぎの園

- ・サービス : 特養、通所介護、ヘルパーサービス
- ・開設年度 : 平成3年
- ・従業員 : 77名
- ・入居者数 : 80名
- ・同法人 : やすらぎの園津久野(介護付有料老人ホーム)
さかい・つくしこども園
オブリガード(障がい総合相談)
中第1地域包括センター

人材定着における施設の課題



人材定着へ向けた取り組み内容

- ・人材育成チームの編成
→「意欲的」「今後伸びて欲しい」という現場のメンバー
- ・アンケートの実施
→「仕事の効力感・充実感」「人間関係」「上司/部下のマネジメント」
- ・チームによる面談
→「新任職員の思い」をより具体的に聞き取り

アンケートの結果

- 「匿名だったの、正直な気持ちや意見、現状を書きやすかった」
- ～浮き彫りになった課題～
- ・役職職員と新任職員間でのコミュニケーション不足
 - ・話しやすい環境や雰囲気を作れていない
 - ・気持ちを汲んだ対応や行動が出来ていない

面談の結果

面談前	面談後
「時間に追われることが多い。」 「部下を気に掛ける余裕がない。」 「上司が忙しそうで相談しにくい。」 「不安に思っている口に出せない。」	「考えや思いを聞いて良かった。」 「不安を聞いてもらえることで気持ちが楽になった。」 「部下の精神面のフォローの必要性を感じた。」
→精神的に追い込まれている...	→普段聞けない本音と思える言葉

アンケート・面談を踏まえて

- ・勤務体制の改善
⇒なるべく新任職員と直属の上司の出勤日を重ねて不安をなくす
◎いつでも相談できる環境へ
- ・コミュニケーションの取り方
⇒定期的に面談時間を設け、フロアから離れた場所を確保して行う
ことで、新任職員の気持ちの変化を感じ取る
◎信頼関係の構築へ

共通の思い

「働きやすい・やりがいの
ある職場にしたい！！」

今後の抱負

- 【立場を超えて一緒に考える時間を作る】
- ・役職職員で得意分野ごとに担当を決める
→アドバイザーとして部下に話しかけ、一緒に考える時間を増やす
 - ・気軽に意見交換できる関係を構築し、楽しみながら
“より良い職場環境”を目指す

テーマ：人材育成・OJT／施設広報

楽しく施設アピール（広報誌を作ろう!）

社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園

施設長：西尾正敏

●事業所紹介

特別養護老人ホーム 美樹の園（昭和59年に開設された特養です。地域高齢者の生活支援のため入所系・通所系サービスを行っています。）

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

施設のことを広く知っていただく目的で、平成3年から広報誌を発行していました。しかし、平成15年に職員の負担が大きくなり休刊状態になってしまいました。
しかし、地域に開かれた施設、サービスを利用する際の情報として、広報誌はあった方がいいという意見も多く聞くようになり、平成22年に復活させる取り組みを行いました。

【具体的な取り組み】

以前に広報誌を担当していた職員から、発刊に当たっての問題点を聞き取り。問題点を元に、
①毎月の発行、②誌面の定型化、③記事の作成担当割、④作成に当たって汎用ツールの活用、
⑤肖像権の問題解決、⑥インターネットへの掲載、について検討を行いました。そして、できる限り作成担当者がたのしく、らくして、紙面作りが継続でき、それでいて施設の内容が分かるよう工夫し、発刊にこぎ着けました。

【活動の成果と評価】

再発行から9年が経過しました。そのうちに広報担当者も入れ替わりましたが、途切れずに継続して毎月発行を続けています。ご覧いただいた方からは「施設の内容がよくわかります」「親が楽しそうにできて安心しました」「こんな事もしてくれているのですね」と好評です。それ以外にも、作成に関わった職員間で、事業所の情報交換をしたり、広報誌を職員が見ることで同法人の他事業を知る機会にもなっています。

【今後の課題】

誌面が狭いので、紙をもう少し大きくして、たくさんの記事を掲載できるようにしたい。行事報告など単調になりがちな紙面に、今までとは違うテーマを織り込んでいきたいと考えています。

楽しく施設アピール ～ 広報誌を作ろう！ ～

2018年度 さかい福祉と介護の実践発表会
発表者 社会福祉法人美木多園
特別養護老人ホーム 美樹の園
施設長 西尾 正敏

社会福祉法人 美木多園の概要

設立: 昭和58年12月
所在地: 堺市 南区 美木多上 1277番地1

<法人の行う事業>

- 特別養護老人ホーム 美樹の園(堺市南区美木多上1277-1)
介護老人福祉施設(定員:114名)
短期入所生活介護(定員:16名)
通所介護(定員:39名)
居宅介護支援
- 老人保健施設 美樹の園(堺市南区美木多上1359-2)
介護老人保健施設(定員:80名)、短期入所療養介護(定員:左記のうち8名)
通所リハビリテーション(定員:33名)、訪問リハビリテーション
- グループホーム 美樹の園(堺市南区小代414-15)
認知症対応型共同生活介護(定員:18名)、通所介護(定員:35名)
認知症対応型通所介護(定員:3名)
- その他の事業
堺市 南第一地域包括支援センター、在宅介護支援センター
高齢者ふれあいデイサービス事業、高齢者生活管理指導短期入所事業
社会貢献事業、美樹の園診療所、高齢者生活支援住宅 美樹の園



事業所初の広報誌(平成3年 創刊)

年間 4回程度発行



休刊に至った背景

- ・長文が多く執筆が大変
- ・ページが多い
- ・紙面構成が都度変わる
- ・記事作成後に肖像権を確認
- ・記事のチェックは複数人で
- ・レイアウトは一人の職員が作成

締め切りに追われ
< 担当者一人を泣かせていた >

- ほかにも
- ・文字が多く小さくて読みにくい
- ・写真が白黒で臨場感が薄い
- など評判も良くなかった



再起動のきっかけ

職員から...

- ・職員採用時に...
施設の雰囲気を紹介するものがない
- ・利用相談の時に...
特徴的なサービスを説明できない
- ・家族や地域の方に...
施設内で何をしているかわからない
- ・営業活動時に...
サービスのアピールがしにくい
- ・ホームページは?
更新できてません!



再発行にあたっての目標

- ① 作る手間を簡略化 継続しやすく
- ② 読んで分かるから 見て分かるに
- ③ 経費を安く



再発行にあたっての検討内容

- ・広報誌の発行間隔
- ・誌面の定型化
- ・記事の作成担当割
- ・編集ツールをどうするか
- ・記事のテーマ
- ・執筆・編集・印刷スケジュール
- ・印刷方法とコスト
- ・肖像権の問題
- ・著作権の問題
- ・ホームページへの掲載 など



目標を達成するために!

<< 紙面構成 編 >>

- ・紙面はA4サイズ両面カラー
- ・フォントは固定
- ・文字の大きさは12ポイント
- ・写真を多く文章を減らす
- ・使うツールはWord®のみ
- ・記事は各事業所におまかせ
- ・誌面の基本構成は定番化
- ・主に過去のことを記事にする



目標を達成するために！

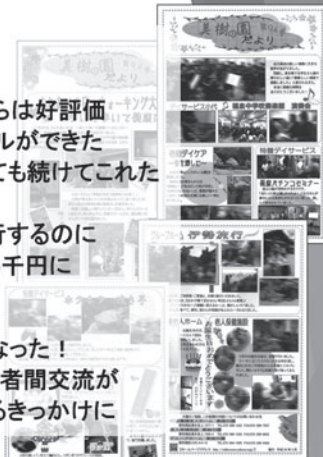
<< 編集会議 編 >>

- ・各事業所から1名以上選抜
その他 事務職員も参加(10名程度)
- ・編集会議は月1回(第2月)、1時間程度
- ・記事の内容は各部署にお任せ
- ・記事作成、編集は輪番制
- ・編集作業当番は、記事作成免除
- ・管理者チェックは印刷直前に1回のみ
- ・印刷期間は1週間、毎月末までに完成



<< 振り返って >>

- ・家族さんや地域の方からは好評価
 - ・求職者の方へ高アピールができた
 - ・職員の入れ替りがあっても続けてこれた
 - ・編集会議が楽しそう
 - ・印刷費用削減 1回発行するのに
20万円越えが → 5千円に
- 意外なメリットも
- ・ワードが使えるようになった！
 - ・会議をきっかけに事業者間交流が
 - ・職員が他の事業を知るきっかけに



今後の目標！！

もっと私たちが
知ってもらうために・・・

- ・ページ数を増やしたい
 - ・デザインセンスを高めたい
- そして
- ・見てもらえるホームページを
作りたい

